



第2回学校運営協議会



学校教育目標「ふるさとを愛し 夢に向かい 共に学び 行動する子」

令和6年7月4日(木) 13:30～15:30

- 1 会長挨拶
- 2 校長挨拶
- 3 授業参観
- 4 前回の会議録確認（CS ディレクター）
- 5 学校支援コーディネーターより
- 6 議長の選出（出席した議員の中から互選）
- 7 熟議
 - (1) 授業参観を受けての感想、意見
 - (2) 学校評価の確認
 - (3) 学校支援と学習支援
 - (4) 前回の学校支援と学習支援を受けて各委員からの報告
- 8 連絡
 - ・ 次回開催日
11月15日(金) 13:30～15:30

令和6年度 第1回 下阿多古小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年 5月 10日（金） 13時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 下阿多古小学校 会議室
- 3 出席委員 出野 光雄、野澤 講一、大石 欽也、坪井 道男、新井 恵美子、
大栗 智恵、内山 達也、鈴木 俊弥、武田 あゆみ
- 4 欠席委員 市川 紀史
- 5 学 校 木下 栄二（校長）、藤岡 政哉（教頭）、沖 みどり（CSディレクター）
- 6 傍 聴 者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 沖 みどり
- 8 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、野澤会長から出野委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

- （1）学校運営の基本方針について概要説明
- （2）夢育やらまいか事業に対する意見書について
- （3）学校支援について

10 会議記録

司会の藤岡教頭から、委員総数10人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校運営の基本方針について概要説明

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき令和6年度学校運営基本方針について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 基本方針の中にも組み込まれているICT教育だが、平行して情報モラルについての学習にも重点を置いてほしい。（出野委員）

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

（2）夢育やらまいか事業に対する意見書について

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき夢育やらまいか事業に対する意見書について説明があり、全員異議なくこれを承認した。

（3）学校支援について

議長の指示により、学校支援コーディネーターである武田委員から、別紙資料に基づき学校に必要な支援について説明があり、委員から、以下の発言があった。

- ・ 学校支援において注意しなければならないのが、支援と指導の違いであり、起こりうるトラブルを回避するためにも明確化する必要があると思う。（武田委員）

- ・ 最終目標である米の販売において、お米の売上金をどう使うかまでを考えることが、子供たちの学習だと思う。(大石副会長)
- ・ 収穫した米を活用するという考えから、以前ではカレーやおにぎりを作って地域の方たちへ振る舞ってくれた。また、再開してはどうか。(坪井委員)
- ・ 食べ物に関してアレルギー等の安全性が確認できれば、再開も可能であると思う。また、学校から地域の方へ返礼できるものがあれば、ご協力くださる方のお気持ちにも張りが生まれるのではないかな。できることを考えていきたい。(校長)
- ・ 米粉を作って活かすのはどうか。米粉は、健康食であり、フードロス問題やSDG'sの観点からも注目されはじめている。活用のしかたを考えてみてもよいと思う。(大衆委員)
- ・ 米にまつわるお祭りとして、地域の神社でも11月には新嘗祭が執り行われている。神社の神主さんにお問い合わせすれば、いろいろなお話が聞けると思う。(野澤会長)
- ・ キャリア教育の観点から、販売に関するノウハウ等を、この地域にお住まいの社長さんを招いてお話を聞いてもよいと思う。(内山委員)
- ・ 皆さんからの豊富な情報により、この地域は人材の宝庫であると感じた。この情報を授業に活かすべく頑張っていきたい。(武田委員)
- ・ このコミュニティ・スクールで熟議した内容を具現化するためにも、自治会や地域の各団体がつながり、学校を核として地域全体の活性化を促せていけたらと思っている。(野澤会長)

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和6年7月4日(木)午後1時30分から会議室で開催する旨の報告があった。

浜松市立下阿多古小学校



令和 6 年度

学校支援・学習支援

米づくり

(1) 田植え

⇒ 6月実施



○活動の概要

青葉会の方々に御指導をいただき、田植えを行った。上級生が下級生に優しく植え方を教える姿を見て、下阿多古小の伝統である田植えが、しっかり下級生に受け継がれていると実感する。田植えの事前準備として5年生が市川敏夫さんに習い、イネの種まきも行っていった。

これから1年間、総合的な学習として5年生が中心となり米作りの活動が行われていく。

●子ども、学校、地域への効果

- ・自分の手で田植をすることで、米作りの楽しさや大変さを体験し、米作りについて関心をもつことができた。
- ・下阿多古幼稚園児や保護者、シニアクラブ（青葉会）の方々と一緒に働くことにより、共に働くことの楽しさやふれあいの楽しさを感じることができた。
- ・田おこしや代かきをしてくれた方々、用水に水を通してくれた方々、田植の指導をしてくださった方々などに感謝することができた。

(2) 稲刈り

⇒ 10月実施



○活動の概要

青葉会の方々に教えていただきながら、下阿多古小総出で稲刈りを行った。高学年とボランティアの方々、先生方が刈り取った稲をすがいと縛り、その他の学年の子たちが縛った稲をはざまで何度も往復して運んだ。

「あゆっ米」完成まで、5年生が脱穀と粳すりの作業が続く。

●子ども、学校、地域への効果

- ・田植えをした稲を収穫することで、収穫の喜びを味わい、自然の恵みに感謝することができた。
- ・青葉会・保護者などと共同で作業することで、地域との交流や親睦を深められた。
- ・勤労の大切さを知り、進んで働こうとする意欲が高まった。

(3) すがい作り

⇒ 9 月実施



○活動の概要

5・6 年生が、青葉会の方々からすがいの作り方を丁寧に教わった。慣れてくるまでなかなか難しく、友達同士で教え合う姿も見られた。昨年経験済みの 6 年生は、コツを思い出すと手際よく作り上げた。

(4) 脱穀

⇒ 11 月実施



○活動の概要

5 年生が、地域の方の指導で脱穀の体験を行った。コンバインを使い、稲の穂先から籾を分離したり、はざから稲を運んだり、脱穀が終わった藁を片付けたり、いろいろな大変な作業があった。

(5) 粳すり

⇒ 11 月実施



○活動の概要

5 年生が、地域の方の協力を得て粳すりを行った。いよいよこのあと「精米」をして「あゆっ米」の完成となる。完成した「あゆっ米」には、5 年生が作成したオリジナルのラベルが貼り付けられる。

(6) 米の販売

○活動の概要

●子ども、学校、地域への効果

アユの放流

⇒ 5 月実施



○活動の概要

阿多古川漁業協同組合の皆様のご厚意で、稚アユを阿多古川に放流した。元気よく泳いでいくアユの姿を見て、子供たちはとても喜んでいた。

阿多古川の環境について知る機会となり、ふるさとを大切にする気持ちが育まれていくと思う。

●子ども、学校、地域への効果

- ・ 阿多古川の自然に親しみ、阿多古川のよさや豊かさを感じとり、自然を大切にしようという気持ちをもつことができた。
- ・ 漁協の方々の指導でアユの稚魚放流体験をすることで、地域の良さに気付くことができた。

桃狩り・梨狩り

(1) 桃狩り

⇒ 6 月実施



(2) 梨狩り

⇒ 9 月実施



○活動の概要

地域の方のご厚意で1・2年生が桃狩り、3・4年生が梨狩りを体験させていただいた。たくさんの実がなっている木を見て感動し、顔がほころんだ。農家の方に取り方を教わり、試食もさせていただいた。帰りには、お土産も頂いて大満足の子供たちだった。

●子ども、学校、地域への効果

- ・ 木に大きな実がなっている様子やそこで働く人へのインタビューを通して、農家の人が桃や梨を育てるのにどのような工夫や努力をしているのかを理解することができた。
- ・ 地域の人材を生かして、教科、領域の枠にとらわれない活動や体験をし、充実感を味わうことができた。

ボート体験教室

⇒ 6 月実施



○活動の概要

清竜中学校区の四小学校の子供たちが、学年ごとに一緒に学習しながら交流をはかる活動として、6 年生がボート体験教室に参加した。4 小の仲間と楽しく関わり合いながら、ボートを漕いだり、エルゴメーターを体験したり、貴重な活動を行った。

●子ども、学校、地域への効果

・同じ中学校区の友達とボートを漕ぐ活動を通して心身を鍛えるとともに、友情や絆を深め、協力や責任を果たす態度を身につけることができた。

クラブ活動

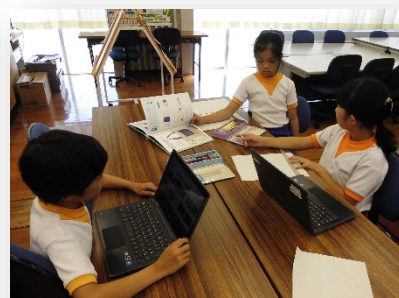
⇒ 9、10、11 月実施



竹細工



グラウンドゴルフ



手芸

○活動の概要

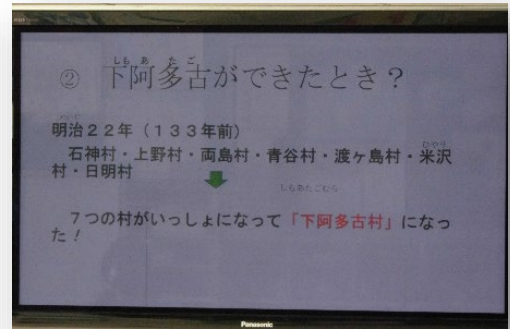
4 年生以上の子供たちは、グラウンドゴルフ、竹細工、手芸のいずれかに所属し、活動している。グラウンドゴルフクラブでは、青葉会の皆様に御指導いただき、ルールを覚えながらグループに分かれて競技を楽しむ。竹細工クラブでは、竹の家みなさんに御指導いただき、竹ひごを使ったバスケット作りに挑戦し、手芸クラブは、作ってみたいものを本やインターネットを使って調べ、3 回に渡って作品を仕上げる。

●子ども、学校、地域への効果

・共通の興味や関心を追求する活動を通して、個性や特性、能力の伸長、合わせて社会性を身につけることができた。
・学年や学級の所属を離れ、主として第 4 学年以上の同好の児童をもって組織するクラブにおいて、異年齢集団の交流を深め、楽しく活動を行うことができた。

阿多古の話

⇒ 10月実施



○活動の概要

3・4年生のあゆっ子学習の時間に、地域の方を講師にお迎えしてお話をしていただいた。

3年生は「下阿多古の昔の話」4年生は「阿多古川」についての話を聞いた。このお話しから、自分で詳しく調べたいことを決めて学習し、生かしていく。

●子ども、学校、地域への効果

- ・ふるさと下阿多古のすばらしさに気付き、この環境・伝統を守っていこうとする気持ちをもつことができた。
- ・自ら課題を選び、探究的な学習を行うことで地域の特徴や良さを知ることができた。

昔のあそび体験

⇒ 1月実施



○活動の概要

青葉会の方が来て、1・2年生に昔の遊びを教えてくれた。カルタ大会をやったり、こまやけん玉、お手玉、あやとり、おはじきなどをして遊んだ。こまやけん玉は、コツを教えてもらって、できなかった子もできるようになり楽しくなった。初めておはじきの遊び方を知り、みんなで夢中になってゲームをした。青葉会の方との楽しい時間を過ごした。

●子ども、学校、地域への効果

- ・地域の人々との交流を図りながら、共に活動する場を大切にし、共に学ぶ良さを実感できた。
- ・一人一人の良さを認め合う場を工夫し、共に励ますことができる思いやりの心を育むことができた。

盲導犬講座

⇒ 1月実施



○活動の概要

富士宮市にある日本盲導犬総合センターから広報担当の方と盲導犬のPR犬である「ヘーゼル」が来校した。6年生が盲導犬の訓練内容や視覚障害者の生活について学んだ。

訓練士さんたちは様々な工夫をしながら、訓練に取り組んでいることが分かり、盲導犬が活動しているときには静かに見守ることが大切だと教わった。

●子ども、学校、地域への効果

- ・教科・領域等あらゆる活動を通して、社会福祉への理解と関心を高め、助け合い、協力しようとする気持ちが深まった。
- ・活動を通して、周りの人への感謝の気持ちや動物へのいたわりの心を持つことができた。

ゲスト・ティーチャー

⇒ 1月・2月実施



○活動の概要

6年生はキャリア教育の一環として、今の自分を振り返り、将来について考えていく学習を行う。ふるさと阿多古で活躍されている先輩方を招き、なぜ阿多古という場所を選んで仕事をしているのか、きっかけや挑戦、苦労、やりがい等を交え、ふるさとの魅力についての話を聞かせていただいた。

●子ども、学校、地域への効果

- ・他者との関わりを通して、自分らしさに気づき、夢や目標に向かって自ら努力することができた。
- ・なりたい自分について考え、今の学びを、社会や将来とのつながりを意識して進んで取り組むことができた。
- ・この阿多古には、目標となるすばらしい人たちが暮らしていることを知ることができた。

令和6年度 下阿多古小学校グランドデザイン

- ◆国の施策
・「生きる力」の育成・社会に開かれた教育課程
- ◆はまつの教育
・自分らしさを大切にする子供
・夢と希望を持ち続ける子供
・これからの社会を生き抜くための資質や能力を育む子供
- ◆清竜中学校区
自分の良さに気づき、他者との関わりを大切に、夢に向かって努力する子

- ◆校区の実態
○阿多古川を中心とした豊かな自然に恵まれている。
○温かな地域との関わりを通して、学校や子供たちは、見守られ、支えられている。
- ◆児童の実態
○明るく素直で学年関係なく接する。
○真面目でやるべきことを確実にやり遂げようとする。
▲自分で判断し行動したり、粘り強く取り組んだりする。
▲多様な考えに触れ、新しいことを創造し、挑戦する。

校訓 「強く 正しく 朗らかに」

学校教育目標 ふるさとを愛し 夢に向かい 共に学び 行動する子

教育目標具現のための3つの柱(キャリア教育の推進)

将来設計・選択の力
(未来のわたし)

他者に働き掛ける力・
コミュニケーション力
(大切な仲間)

計画・立案・実行・評価の力
(計画と実行)

< 確かな学力 >

- 「自分の考えをもち進んで伝え合う子の育成」を目指した授業研修
・主体的・対話的で深い学び ・個別最適な学びと協働的な学び
- ICT機器の活用促進と情報活用能力の育成 (情報活用の実践力・情報モラル)
- 複式授業の学習スタイルをモデルとした学び方の習得

< 豊かな心 >

- 「今、何をすべきか」を考え、行動する子を育む機会や場の設定
・気づいて行動 ・ソーシャルスキル ・動と静の切り替え ・聴く姿勢
- 多様性にふれ、他者を尊重し、自分の可能性を広げる場の設定
・異学年交流 ・連合教育 ・自分から行う気持ちのよい挨拶 ・「ありがとう」と素直に言える
- 自分のよさを知り、なりたい自分を思い描く場の設定

< 強い心と健やかな体 >

- 個に応じた自力解決と挑戦の場の設定及び、個に寄り添った支援
・「分かった」「できた」の積み上げ ・「分からない」と言える ・「やってみよう」と思える
- 体力や技能の向上に向け、めあてを持って運動に取り組むことができる場の工夫
- 心身の健康や安全に対する意識を高め、実践につなげる機会の設定

ふるさと下阿多古を愛する心の醸成

- 地域の人材や環境を活用した教育活動の推進と、その価値づけ
- 地域の「ひと」「もの」「こと」との関わりへの気づき、大切に思い、感謝する



安定した学校経営の基盤

- ◆ 児童・保護者・教職員が安心できる学校風土づくり(温かい関わり、いじめを生まない、見逃さない)
- ◆ 保護者や地域から信頼される学校の推進(学校HP・ブログ、学校だより、教育相談体制、CS)
- ◆ 家庭との連携による学習・生活習慣の確立(家庭学習、保健だより「早寝、早起き、朝ごはん」の啓発)
- ◆ 児童の健康と安全を守る環境づくりと危機管理体制の構築(施設設備、防犯・防災、いじめ防止)
- ◆ 教職員の資質向上と心身の健康増進の両立(学び続ける教師 実効性のある働き方改革)

「また明日。」と、みんなが思える学校 ～ ウェルビーイングの実現 ～